

かなり長い間が空いてしまいましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。そして10期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

僕の卒業は今夏になりますので、あと数か月高校での生活が残っていますが、新型コロナウイルスの影響で、今学期はすべてオンライン授業になってしまいました。

イースターの休み明けからは通常授業に移行するとのことですが、不確実な部分が多く正直不安です。

今回は、（もううんざりかもしれませんが）英国内でのコロナウイルス感染拡大やそれに対する対処などについて自分の体験を交えつつ書いていきます。

12月～クリスマスまで

11月半ばごろから減少に転じていた新規感染者数も12月の頭から増加しはじめましたが、クリスマスを挟んだ3日間、規制を緩める計画が政府から出され、離れて住む家族、友人などと会えるようになると皆希望を持っていましたが、結局感染が拡大し続けたため、クリスマス当日のみルールが緩和され、26日から再びロックダウンに入ることになりました。



僕はホストファミリーと一緒に過ごしていましたが、家族全員同じ場所に住んでいるので、例年と大きく変わることなくクリスマスを過ごすことができました。

こちらのクリスマスは、七面鳥、pigs in blanket（ソーセージをベーコンで巻いたもの）やクリスマスプディング（写真）などで祝います。

26日から始まったロックダウンでは外出自粛、必需品を売る店以外の休業など、厳しいものでしたが、1月中旬まで新規感染者数、死者数は増え続けました。12月からワクチン接種も開始されましたが、感染力の強い変異種の発見で楽観論は吹き飛んでしまいました。そのあからは、ワクチン接種と感染拡大のレースに例えられて外出自粛の必要性が強く説かれました。

2月 学校に戻る

学校に戻るようになったのは2月の頭で、もともと戻る予定だったのですがコロナ騒動で隔離期間が長引きかなり後になってしまいました。現在、様々な学年の生徒30名程度が一つの寮で暮らしています。とはいってもすべてオンライン授業なので、基本的に食事以外は自分の部屋でPCと向き合っている生活なのですが、週末は友達と料理をしたり、午後はスポーツなどの活動などもできたりと、精神的、肉体的にも健康的な生活ができています。



スコットランドではすべての学校で生徒、教員に対してコロナの検査を週2で行うことが義務付けられ、写真のような自分でできる簡易検査キットが配布されました（鼻や喉に綿棒を突っ込むのはまだ慣れませんが）。英国ではA-levelの最終試験が中止され、学校の先生たちによって最終成績がつけられることになりましたが、まだ決まっていない事が多く、かなり不安なこともあります。今やれることをやるしかないし割り切ってやっていくしかないと思っています。

3月中には大学からのオファーも出さそうと思うので、明確な目標ができればもう少し生きやすくなると信じて頑張っています。

最後に

英国に来てからもう1年半になります。2020年に入ってから全く予想もしなかった展開になり、一時帰国することにもなりましたが、最終的にはまたこちらに戻ることができて本当に良かったです。やはり現地での生活、体験から得られるものは多く、自分の成長にもつながることなので、コロナ禍でいろいろな制限がある中でも留学ができて、本当に良かったと思います。もちろん困難に直面することもありましたが、それもまた成長の糧になると思い必死にやっていたら、時間をおいて振り返って見るといい経験だと思えます。もちろんこれは留学に限ったことではないのですが、コロナ禍での留学経験を通して身についた、限られた環境の中でいかにその時間を自分にとって有益なものにするか考える思考のプロセスはきっとこれからの人生で役に立つと信じています。

今まで支えてくださった学校の先生、友達、そして財団の方々には感謝が尽きません。そして忙しい中、頻りに連絡を取ってくれた10期生の人たちにもお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。一緒に小石川に入学した10期生と一緒に卒業式に参加できないのは残念ですが、小石川での学校生活は自分の人生で一番濃密で重要な時間だったと思っています。こんな世の中なので、先の見えない不安も多くありますが、何が起こるかわからないからこそ将来の可能性も広がっていくのだろうと最近よく思います。

4月からの皆さんの新生活が素晴らしいものになることを願ってやみません。改めて卒業、本当におめでとうございます。またすぐに会えることを楽しみにしています。